

1. 樋山遺跡

所在地：あわら市樋山

調査原因：県営経営体育成基盤整備（ほ場）

調査期間：平成25年6月3日～8月30日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：850 m²

時代：奈良・平安時代



位置図(S=1/50,000)

調査の概要

樋山遺跡は、樋山集落南側の山裾に沿って広く展開していると想定されます。遺跡は、その山裾の緩斜面上に立地しています。調査箇所は水田です。

遺構

調査区中央部に集中し、南側では散発的に分布する程度で、調査区の東側および北側では遺構がほとんど確認できませんでした。主な遺構は溝と製塩炉です。調査区中央付近の溝はL字状のものや弧状のものなどが複数めぐっており、その中央部に柱跡と考えられる穴の列が方形に配置されることなどから、建物の周溝であると思われます。溝が複数重複しながらめぐっていることから、複数回の増築・改築が行われていた可能性が考えられます。

製塩炉は石敷きで、拳大の礫を水平に敷き詰めたものです。北側と東側は面が揃っているものの、南側と西側は面が揃っていません。製塩炉は建物と思われる溝・ピット群の西側に位置します。ただし、製塩炉は土層堆積状況の観察結果から、溝・ピットが埋没した後に造られたことが確認されるため、それらと同時期に機能したものではないと言えます。

遺物

製塩土器や支脚が多く出土しました。また、少量ですが須恵器も出土しており、奈良・平安時代のものと判断されます。遺物を含む層は、20 cm～1 m程度の厚みで調査区の東側隅と北側隅を除くほぼ全面に堆積していました。この層は、製塩活動において使用不可能となった製塩土器片を廃棄した結果として形成されたものと考えられます。土層堆積状況の観察から、製塩活動とそれに伴う土器の廃棄行為が複数時期にわたって行われたことが明らかになりました。

まとめ

樋山遺跡は、奈良・平安時代に製塩活動を営んでいた遺跡であることが明確となりました。北潟湖周辺に製塩遺跡が多数存在することは、分布調査の結果から以前より指摘されていましたが、今回の調査は、実際に製塩炉を確認した最初の事例となりました。製塩炉の確認事例は、嶺北地方では2遺跡3例目で、希少性が高く貴重な調査事例と言え、この地域での製塩活動を解明する上で重要な遺跡と位置づけることができます。

(白川 綾)



調査区全景（北から）



ピット（SP041）遺物出土状況（西から）



溝（SD001）遺物出土状況（西から）



溝（SD012）遺物出土状況（南から）



溝（SD017）遺物出土状況（西から）



調査区南壁土層堆積状況（東から）



製塩炉検出状況（西から）



製塩炉検出状況（東から）